



## 第9回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話の促進につながるものと期待されます。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。

第9回は、「生きた細胞を、生きた組織、生きた個体の中で観察する生体イメージング研究と可能性」、そして「壊れた神経回路(神経細胞)の再生の最新の取組みと今後の展望」についてご講演頂きます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2016年 **9月21日** (水) **15:00-18:00**

会場：KMO カンファレンスルーム C-01 (グランフロント大阪 北館 タワーC 8階)

地図 → [http://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc\\_access.html#jump](http://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc_access.html#jump)

参加費：無料 (交流会：1,000円)

主催：NPO法人 近畿バイオインダストリー振興会議・公益財団法人 都市活力研究所

共催：NPO法人 バイオグリッドセンター関西

後援：大阪医薬品協会

15:00-16:00 「最新の生体イメージング技術で捉える免疫炎症・骨破壊の動的実体」

大阪大学大学院医学系研究科・生命機能研究科 免疫細胞生物学、

AMED・JST, CREST 教授 石井 優

私たち動物では「動き」が重要である。様々な細胞の動態は時空間的に精緻にコントロールされている。ところが従来の組織学的手法による固定・薄切した組織観察では、細胞の「形態」や「分子発現」などを解析することはできるが、細胞の「動き」を解析することはできない。細胞の動きを見るためには、「生きた細胞」を、「生きた組織」「生きた個体」の中で観察する必要がある。

本演者は深部組織の観察に適した多光子励起顕微鏡を駆使して、生きた細胞の生きたままの動きのある世界を捉えることを可能にしてきた。本講演では、演者がこれまで行ってきた骨髄や免疫組織の生体イメージング研究を中心に紹介し、見ることによって初めて分かった様々な免疫細胞の巧妙な動きとその制御による新しい治療の可能性について解説する。

16 : 00-17 : 00 「中枢神経障害に対する再生治療戦略」

大阪大学大学院 医学系研究科

教授 山下 俊英

脳血管障害や脊髄損傷、多発性硬化症などの中枢神経疾患による神経症状を軽減させるための治療法の開発研究が進んでいる。薬剤のみならず、細胞移植、リハビリテーション、電気刺激など、さまざまなアプローチで新たな治療法が開発されつつある。これらはいずれも壊れた神経回路を再生させようとする試みである。本講演では、中枢神経の再生はなぜ困難なのかという疑問に答え、薬剤治療に焦点を絞り、開発の現状と今後の展望について述べる。

17 : 00-18 : 00 交流会・名刺交換会

申込先：参加希望者は2016年9月21日（水）までに、公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。ただし、定員（70名）に達し次第、締め切らせていただきます。

URL : <http://www.urban-ii.or.jp/>

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）  
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村、會澤）